

このセッションでは、いろいろなチューターの先生の実際に経験された 11 症例をもとに、12 人の小グループで IVUS の lecture および討論を行うプログラムであった。

各施設とも IVUS は使用しているが、若いフェローばかりなので、読影はすこし苦手のようだった。大倉先生が IVUS の基本像から解説され、実際の症例の読影となった。

Case 1-3 は ostial lesion の AMI の症例で、etiology にせまるために IVUS を行っている。

Case 1 は ACS、case 2 は Af の coronary embolism、case 3 は DAA であった。Case 4, 5 は壁在血栓、attenuated plaque、lipid pool の実例、case 6 は RCA の RMI で no-reflow の原因検索で IVUS が役に立った例であった。特に case 6 では、大量の血栓ときたない micro channel が印象的で、また、intramural hematoma の実例も見ることができ、有益であった。

Case 7-11 は駆け足であった。Case 7 は intramural hematoma、case 8 は extramural hematoma も合併しており、その後の PCI のストラテジーを変更した症例であった。この extramural hematoma は angio では描出されておらず、IVUS を併用してならではのメリットだった。Case 9 は AMI #6 just proximal の症例で、IVUS marking により guide wire cross に成功した症例であった。これも、IVUS を併用してのメリットであった。Case 10 はステント内の透了像に対する IVUS による access で、術直後の IVUS と慢性期の IVUS を比較することにより、さまざまな speculation をかきたてるものであった。

普段は IVUS はステントの size、length の決定、および拡張の具合をみて post dilatation を追加するかどうかの決定のために使用することがほとんどで、細かな所見を今回教えていただいたことで、いつもは所見を落としているのかの知れない、普段からもっと注意深く見ないといけないな、という気持ちにさせられた。